

京都教区時報

小教区の頁 — 大和郡山教会

第70号

発行所

京都市中京区河原町三条
カトリック京都司教区
広報室(Tel 211-3768)
編集責任者 村上透磨
編集部 教理センター
田中司教認可

クリスマス メッセージ 再度回心して、信仰の見直しを

京都司教 田中健一

'80年代最初のクリスマスが参りました。主のご降誕二千年を20年後に控えた大きな区切点のクリスマスであります。

私事で大変恐縮ですが、自分の今までのクリスマスを振りかえってみると、'30年代の最初のクリスマスは私が3才児の時両親に連れられて行つたそれでした。'40年代のそれは小学6年生、'50年代のそれは東京神学院にいる時、司祭志願の仲間と一緒に迎えたものでした。'60年代のそれは大阪司教館に奉仕している時、そして'70年代のそれは瀬戸内海の国立ライ療養所で病友たちと共に貧しく記念しました。'80年代今回のものは、全く未知であります。'90年代のそれは全く未知であり、私共の幾人かにとっては今回のクリスマスが地上での最後のものであります。

無数の存在の中で、自分が人間として生れさせて頂いていることの不思議さ。10年刻みにその一点、瞬間だけを眺めると実にアッサリしているようですが、その点と点をつなぐ、短かいようで長い線を眺める時、自分の周囲にも色々な事が起り、それらを体験させられた歩みでした。それはすべての人にはまつた、長いつらい人類の歩みへ抜つて行くものだと思います。

「みことばは此処において人となりえりえりえられるでしょうか。

'80年代最初のクリスマスが参りました。主のご降誕二千年を20年後に控えた大きな区切点のクリスマスであります。

私事で大変恐縮ですが、自分の今までのクリスマスを振りかえってみると、'30年代の最初のクリスマスは私が3才児の時両親に連れられて行つたそれでした。'40年代のそれは小学6年生、'50年代のそれは東京神学院にいる時、司祭志願の仲間と一緒に迎えたものでした。'60年代のそれは大阪司教館に奉仕している時、そして'70年代のそれは瀬戸内海の国立ライ療養所で病友たちと共に貧しく記念しました。'80年代今回のものは、全く未知であります。'90年代のそれは全く未知であり、私共の幾人かにとっては今回のクリスマスが地上での最後のものであります。

現代世界は驚く程、否恐ろしい程変化しました。支配者は自分を守るための利己心を、被支配者は圧迫に対する憎悪の利己心をもつて悩み苦しんでいます。個人レベルから国際レベルに至るまで同様であります。

それ丈に私共が頂いているキリスト誕生に始まりその復活に至るみこぼは信仰を自分の置かれている区切点に素直に立ち、適切に見直しきさせて頂かなければ現代世界に合わない無駄な信仰になるのでは無いかと心配します。



教区短信

▽12月8日(日) 教理センター理事会

▽12月14日(日) 大和八木教会堅信式

▽12月15日(月) 邦人司祭月例会

▽12月21日(日) 精華教会 司教訪問

▽12月24日(木) クリスマス・イブ

▽12月25日(金) 主キリストご降誕祭

▽1月1日(木) 正月元旦、
世界平和祈祷日

▽1月5日(月)

教区内司祭・修道士懇親会

▽11月16日(日)

富雄教会堅信式

▽11月17日(日) 邦人司祭月例会

▽11月18日(火)~22日(火) FABC諸宗教担当司教研修SIRAI(台北)日講演 井上洋治師(於・河原町)

▽11月23日(日) 教区創立記念日、ビジョン作り連絡会

▽11月25日(火)~28日(金) 司教協議会総会(東京)

▽11月30日(日) 登美ヶ丘教会堅信式

教皇訪日いよいよ本決まり

教皇訪日のうわさは、單なるうわさの域を出て、早ければ来年2月にも実現する可能性が濃くなつた事を、カトリック新聞の10月26日号が告げている。訪日にについては賛否両論飛びかい、喜ぶ人、氣づかう人、さまざまであるが、日本司教団が、種々の熟慮の後、決定した事であるので、私達も全面的協力を惜しんではならない。予定では、東京・広島・長崎を訪問され、京都には立寄らない。しかししそが、歓迎をしない理由になつてはなるまい。

「教会の第一の牧者、神の国のメッセンジャー・平和の使者としての教皇の訪日が、40万の日本カトリック信者はもちろんのこと、善意ある日本人のために意義あるものであることを田中司教も望んでいる。

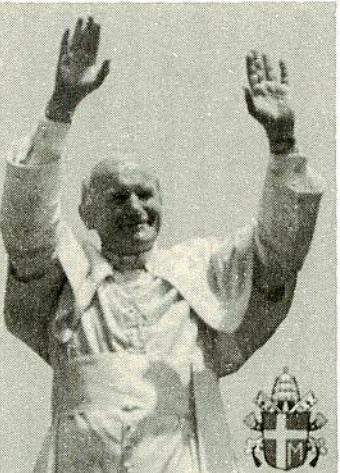
教皇の旅は、ペトロとパウロのそれであり、「一切の虚飾を避けた」純粹に、宗教的・司牧的・使徒的なものであつて、教皇御自身が望んでおられる事を率直に受けとめ、單なるお祭り騒ぎ的な迎え方をすることを避けなければならぬ。エルサレム入城の時にはなばなしの出迎えではなく、羊飼いをしたう羊のように、山上の垂訓をなさるキリストに集まつた人々のよう、教皇をお迎え出来ればと思われる。

また、その旅は、ペトロのように全教会の祈りに支えられながら、福音を告げ兄弟達の信仰を固め、教会を慰め、人々

に出会うためのものである。それは、使徒的共同職を世界のあらゆる地域にまでおし広げていく巡回カテケジスであり、福音宣教である。

さらに、教皇は、地方の神の民を「生きた聖所」と呼ばれ、日本を聖所と考えられている事に注目しよう。

教皇は愛の証人としておいでになろうとしている。その愛を、まず私達信者が感じとり、私達のパパをお迎えするのだ



最後に、初代教会の人々がペトロのために折つていたように(使12・12)教皇のために祈り、そして、その旅路を祝福してくださるように祈ろう。訪日については、種々の心配があることだろう。しかし心配が多ければ多いだけ、祈りもまた、熱を加えなければならない。

ヨハネ・パウロII世に関する文献

「クラクフからローマへ」(中央出版社)

「ヨハネ・パウロII世」

「反対をうけるしるし」(エンデルレ社)

「金細工の店」「すべての人に心を開く」

(女子パウロ会)

教皇教書

「聖体の秘義と礼拝」
「要理教育に関する使徒的勧告」

(中央協議会)

した。

する本がいくつか出でているので、それをお読みになる事をおすすめしたい。また

教皇就任以来、矢張り早くに語られ、あらわれた教えを、カトリック新聞を通じて、あるいは「レデンプトール・ホミニの

Sr.ジュリアスマリーの司会で、修女連担当の田中司教の講演が始まった。テーマは「京都教区の現状と今後の展望」とい

ういかめしいものであったが、教区の沿革、現在、分析、将来の展望など、諸宗質疑応答があり、講師、聴衆共リラック

スし、終始和やかな雰囲気であった。

修女連の活動内容の紹介はスライド構成だった。修女連は、今年は高遠な理想はさておきまず身近なことから足がた

めしようと「お互いをよく知ろう」を目指でこのよう企画がなされた。今回は

ウイチタの聖ヨゼフ会、ドミニコ会、善きサマリヤ人会、メリノール会がそれぞれ修連女達の活躍や会の特徴などを紹介した。

同じ教区内でありながら以外と他の修道会の働きには未知なことが多い。お互いをよく知ることによって正しい暖かな理解、建設的な交流、助け合ひへと発展していくのではないだろうか。折しも、

教区ビジョン作りも軌道にのりつつあり、教区発展の為に、私達も司祭、信徒と共に主における一致と協力の中で独特の使命があることを感じながら午後3時閉会

久ぶりの好天に恵まれた11月9日、京都教区修女連の研修会が信愛幼稚園のホールで行われた。

京都修道女連盟の研修会

70数名のシスター達で会場はほぼ満席

Sr.ジュリアスマリーの司会で、修女連担当の田中司教の講演が始まった。テーマは「京都教区の現状と今後の展望」とい

ういかめしいものであったが、教区の沿革、現在、分析、将来の展望など、諸宗質疑応答があり、講師、聴衆共リラック

スし、終始和やかな雰囲気であった。

修女連の活動内容の紹介はスライド構成だった。修女連は、今年は高遠な理想はさておきまず身近なことから足がた

めしようと「お互いをよく知ろう」を目指でこのよう企画がなされた。今回は

ウイチタの聖ヨゼフ会、ドミニコ会、善きサマリヤ人会、メリノール会がそれぞれ修連女達の活躍や会の特徴などを紹介した。

同じ教区内でありながら以外と他の修道会の働きには未知なことが多い。お互

いをよく知ることによって正しい暖かな理解、建設的な交流、助け合ひへと発展していくのではないだろうか。折しも、

教区ビジョン作りも軌道にのりつつあり、教区発展の為に、私達も司祭、信徒と共に主における一致と協力の中で独特の使

命があることを感じながら午後3時閉会

(Sr.児玉)

西宮市立図書館
成績簿

「みことばと典礼コース」は十月十日から二日間、宇治カルメル黙想の家で行われた。

講師は「典礼」を国井健宏師(御受難会)、「みことば」を石川康輔師(サレジオ会)。

受講者は北海道はじめ、各地から司祭、伝導者を含め22名。全生活を体験学習として細やかな配慮のもとに組まれたコースは、受身の講習ではなく、各自の個性、能力がのびのびと發揮できた。

体験学習は、次の四つに区分できる。

(一)「典礼、みことば」についての講義。

(二)全員3グループに編成して自主的学習。

(三)「典礼、みことば」についての講義。

(四)その他の生活時間(食事、自由時間、黙想時間等)。(三)、(四)でもグループ単位での活動が大切にされた。

「典礼」についての学習は、国井師の講義を中心に行われた。

師はまず「一同はひたすら使徒達のこ

とばを守り、兄弟的交わりを大切にし、パンを生き、祈りをしていた」(使徒2章42)を引いて初代教会に立ちかえり、過越の記念、キリストの食卓を閉むミサ

の原型を詳しく話された後、これが次第に発展し、儀式化され、本来の生活に密着し全員が共に行うという姿が失われてゆく歴史的过程を指摘。第二バチカン公会議の精神に基き「食卓を閉む」信仰体験をどうとり戻して行くかを、現在の式次第の分析を通して明らかにされた。このテーマで私のグループ学習での、主要な

ポイントは、次の諸点である。

(一)ミサが教会活動の源泉、頂点としてふさわしい位置を占めているか。

(二)信者の積極的な信仰表現が最も望まれる「朗誦」「共同祈願」「平和の挨拶」等で共同体の感動と一致が主日毎に深まっているかどうか。

(三)未信者、信者の若い子弟の信仰を育てる温い配慮が備わっているかどうか等。

「みことば」の学習は石川師の講義を中心に行われた。

聖書の成り立ち、日本語と原典で用いられる言語の表現上の差異、解釈の手順の説明の後「マルタとマリア」(ルカ10章38~42)を例に具体的な味わい方を学習。

師はみことばの中で「教えを聞く」「思

いわざらう」の二つのことばを把えて、聖書の中でどう使われ、ギリシャ語の言語構造ではどんな特長を持つかの観点から詳しく観察し、結論とし、

(ルカは、教えを「聞く」ことを信仰の基本と信じ最も大切にした。

(二)「思いわざらう」が信仰の中で「神の國の義」の実現を不可能にすること。故に、マルタは当然イエズスにたしなめられたことを明らかにされた。

以上は学習のほんの一コマ。研修の合間、静かな院内を散策、或いは参加者同士の語らいの中で友情を育てあつた。私にとって、こんなに真剣で熱い、愛すべき兄弟達と巡り会えたのは何年ぶりだろう。最後のミサでの平和の挨拶!! ここで学んだものが全部結実し大きく花開いていた。

時重ねて四半世紀 宇治 九条 25周年

西宮市立図書館
成績簿

ます9月21日、九条教会では創立25周年を、簡素な中にも壯厳な式典と堅信式が行われた。

当教会は昭和30年故P・ダッフィー師により創立された、師は今年四月に帰去され

たが、それから六ヶ月目にあたるこの日に祝典を催す事が出来たのを見る時、ル

カ書一章を眺めている様に思われた。

師は常に何かを呼びかけておられたのだろう。25周年を祝うより、この日を機にして「新しい旅立ち」の日にしようと、皆で誓い合つた。

創立者は祈りの人であり、常に「お祈りなくして何が出来よう」と述べておられたことを心に再び刻み、記念品として、「祈りの友」を配布した

心に再び刻み、記念品として、「祈りの友」を配布した

昨年、CBS2代担当司教として浜尾司教の推戴式に全国から約千名のスカウト関係者が参列し、共にその喜びを分かちあつた。これを期に「カトリック・スカウトの日」が決められ、本年は全国的に呼びかけられた。当教会支部も積極的に取り組み、去る9月21日、伏見教会にて教区第1回の「スカウトの日」合同ミサが、参加隊旗を祭壇に飾り、田中司教主式の共同司式にてささげられた。

参加スカウト数、ボーパー152名、ガール95名、総数247名。

この合同ミサを通じ、受洗者、未受洗者の区別無く、スカウトの第一の誓である「神と国とに誠をつくし……」の意味を祈りの中で考へ、スカウト精神の本質と信仰と共に考える場とする事が出来た。

ミサの後、聖母小学校にて交換会を催し、和氣あいあいのうちに散会した。

未参加団から次回は必ず参加するなど

の声も聞こえ、田中司教からの励ましのメッセージもいただき、一同、心強く感じている次第である。

中村昌泰(大和八木)



ミサが行われた。ミサ中堅信を受けた者

アジアの兄弟のために—

ウォーカソン



11月3日9時過ぎ、教区時報編集部主催第2回ウォーカソンの一行が河原町教会を出発した。市内16キロのコースを、ほぼ全員が歩き通した。参加者が募った

スポンサーからの募金は、アジアの施設に送られる。一人一人の小さな力が積み重なれば、キリストの力のすばらしさが表れてくることを身をもって体験し、からだを使っての福音宣教の意義を確認した。また今回は、司祭・修道女の協力、小教区をあげての参加が特記される。

参加数二〇名、スポンサー二〇〇名
募金額一三一万円

(11月25日現在)

お知らせ

八日間の個人指導の黙想

期日 * 昭和55年12月28日6時～56年1月5日

* 昭和56年3月17日～3月25日

場所 京都ノートルダム祈りの家、及び
メリノールハウス

(大津市唐崎1丁目3ノ1)
費用 三万五千円
申込先 〒520-01 大津市唐崎1丁目3ノ1
(TEL. 0775-79-2884)

「ナザレのイエズス」上映

期日 11月29日～12月12日

場所 美松劇場

※特別割引券(千円)は、各教会でお買
い求め下さい。

司教の足どり

9月

18日 ビジョン学習会(浮田氏)

名古屋教区葬(故松岡司教)

19日 クレッチャードと面談

20日 善きサマリヤ人会代表と面談

21日 ①九条教会25周年堅信。ミサ

22日 邦人司祭例会

M・M管区長と面談

24日 近畿修女連養成担当者研修会
(六甲)

25日 ウォルツシューレと面談

T弁護士、S設計師と面談

28日 ①亀岡教会ミサ。同信徒会と懇談

29日 ③邦人司祭黙想会(講師浮田氏、
押田師)

10月
5日 河原町教会ミサ。衣笠墓地委員会

8日 上田師と面談

ビジョン事務局会議

9日 ビジョン学習会(深水師)

10日 信徒養成みことば典礼コース
(宇治カルメル会)

11日 カルメル会、ミラノ管区長来訪

12日 ④津教会堅信ミサ

15日 信徒使徒職委員会(東京)

16日 J C P R (諸宗教)と面談

- 19日 ①伏見教会堅信ミサ。全日本カリスマティック司祭黙想会(関西)
17日 J M P C 理事会(東京)
18日 教皇訪日準備打ち合わせ会(東京)
19日 ①伏見教会堅信ミサ。全日本カリスマティック司祭黙想会(関西)
20日 諸宗教(ネミ)懇談会
21日 ヴィアトール祭(北白川教会)
22日 メキシコG市代表来訪。南婦連委員会。ビジョン事務局会議
23日 毎日新聞記者と面談
24日 上田師と面談



東京神学院司教常任委員会

- 2日 ④河原町教会ミサ(死者の日)
3日 衣笠墓参
4日 ウォーカソン
8日 教皇訪日打ち合わせ会(東京)
8日 門脇師來訪。世界連邦宗教委員会
9日 修女連研修会(河原町信愛)
10日 司祭評議定例会
11日 諸宗教(ネミ)懇談会(熱田神宮)
11日 諸宗教(ネミ)懇談会(熱田神宮)
12日 ③東京神学院常任委員会(東京)
12日 ③東京神学院常任委員会(東京)
14日 教区内幼、園長会
男女管区長会議

<p>学校法人 聖母女学院 募集人員 聖母女学院短期大学 児童教育学科 1回生100名 家政学科 1回生100名 聖母学院 幼稚園 1年保育(若干名)・2年保育(約100名) 3年保育(約20名) 同 小学校 1年生(男・女) 約160名 同 中学校 1年生(女)約130名(内部進学約70名を含む) 同 高等学校 1年生(女)約10名(外部)・約120名(内部) 詳細は下記にお電話下さい。 〒612 京都市伏見区深草田谷町1 (075)641-0507(学院) (075)643-6781(短大) TEL 0593-45-0036</p>	<p>エスコラピオス修道会による男子のみの 中・高等学校 中学入学検定日 1月18日(日) 8時40分集合 9時試験開始 高校入学検定日 2月7日(土) 8時30分集合 9時試験開始 三重県四日市追分1-9-34 海星中・高等学校 (TEL 0593-45-0036)</p>	<p>日星高等学校 募集人員(120名定員の寮あり) 普通科 約130名(女子) (英語コース20名含む) 衛生看護科 約40名(女子) 出願期日 56年2月6日~13日 試験日 2月15日(日) 英語コース・衛生看護科に推せん制度あり 科目 国・数・英・面接 舞鶴市上安久381 TEL 0773-75-0452</p>
	<p>学校法人聖カタリナ学園 聖家族女子高等学校 募集人員 普通科 90名 衛生看護科 40名 出願期日 2月2日(月)~13日(金) 試験日 2月15日(日) 試験科目 国・英・数・面接 学寮あり 京都府船井郡園部町美園1-78 TEL そのべ(07716)2-9163(代)</p>	<p>メリノール女子学院 中・高等学校 入学試験日 中学 1月18日(日) 高校 2月7日(土) 四日市市平尾町2800 TEL (0593)26-0067</p>



クリスマスおめでとうございます
子どもたちに力トリック教育を!

<p>暁星女子高等学校 募集人員 (寮完備) 普通科 約155名(女子) 出願期間 56年2月9日(月)~2月14日(土) 試験日 2月17日(火) 試験科目 国・数・英・面接 宮津市定柳郷手303 TEL 07722-2-2560</p>	<p>セントヨゼフ女子学園 中・高等学校 入学試験日 中学 1月18日(日) 高校 2月6日(金) 三重県津市大字半田1330 TEL (0592)27-6465</p>	<p>学校法人 ヴィアトール学園 洛星中学校 募集人員 男子 180名 入学試験日 3月2日(月) 3日(火) 洛星高等学校 外部からの入学なし 〒603 京都市北区小松原南町33 TEL 075(463)3281</p>
---	---	--

学校法人

ノートルダム女学院

女子大学 左京区下鴨南野々神町1番地	TEL 781-1173
高等学校 左京区鹿ヶ谷桜谷町110番地	TEL 771-0570
中学校 同 上	
小学校 左京区下鴨南野々神町1番地2	TEL 701-7171

四年前に郡山教会へ参りました。最初の役員会で紹介され、会長から郡山教会に於ける神父様の方針は何ですか?と聞かれ突然の事で簡単に云えず困りました。暫く考えさせて貰つて、一口に云えれば祈る教会に成る事です、と答え、私の活動で祈る教会に成る様にしたい、と云いました。世間ではエネルギー問題で議論華やかですが、一番大きな問題は、石油からのエネルギーではなくお祈りからのエネルギーです。石油エネルギーは色々な物を動かしますが、人の心は動かせません。その点お祈りからのエネルギーが現代社会に欠けているだけに、一番必要な物だと思います。それが私の全ての福音活動の動機になつた様な気がします。

それは親から教えられた事ではないかと思うのです。私の親は結婚してから毎日ロザリオを唱えました。子供は八人います。そして毎日揃つてロザリオを唱えました。神学生の時、休暇で家へ帰る事になつたのですが、親をびっくりさせようと連絡もせずに、既に兄弟は独立したりして家では両親だけです。裏門からそつと入つて居間でロザリオを唱えている二人の姿を見て心の底に祈りの大切さが焼きつきました。そしてその時の両親の模範は一生忘れられません。母は今日もロザリオを唱えています。

ルーニイ神父(大和郡山教会主任)

祈る教会

説教
19

大和郡山教会



活動のエネルギー祈り



浦上流配記者記念碑は、明治初年長崎県

浦上より、この地に流配され亡くなられた方の墓碑を、昭和四十五年墓碑のあつた雲幻寺より移し建てられたものである。

その折同時に流された方々の名前も記されており、その中には先程帰天された前の名古屋司教、松岡司教様のお母様の名を見ることが出来る。

今、青年たちが、インスタントラーメン

司祭館は洋館の二階建で、玄関に入る

と左側奥が神父様の食堂になつてある。

ルーニイ神父(大和郡山教会主任)

を片手に、この夏行われた長崎青年大会

の文集の編集を兼ねて、奈良県下のカト

リック青年連合会の設立準備会を行つて

いる。その隣室は応接室で、婦人会の役

員がバザーの打ち合せを行つて話

の尽きることがない。教会事務所はその

隣で玄関を入つたところにあり、今日は

久保シスターが、求道者のための教理の

勉強会をされている。二階は神父様の私

的な場所で書斎と寝室になつてゐるが、

書斎では祭儀のための御言葉の準備会が

あるらしく祈りの声が聞こえて来る。さ

すがに神父様の私

寝室に入る者は

いない。左手で

司祭館の扉を開け右手で御聖堂

の扉を開けると

香部屋である。

御ミサの後片付けを終つた中

学生が、聖歌練習を始めようとしている。先日行われたこの教会の二十五周年記念の折、好評を博した聖歌隊である。

どこの教会でもそうであるように、御

ミサの後の御聖堂は静かな中にもどこか華やかな雰囲気がただよつてゐる。祭壇

は外の光を大きく受け入れて明かるくそして落着いてゐる。朗読台はいつも信者

の席に向けられ聖書が開かれ、聖句を書かれた白い布が掲げられており、この聖

句は時々替えられる。今は「流れのほと

りの木のよう」に神に従う人は実を結ぶ

が掲げられているが、この前には「人はパンだけで生きるのではない。神の口から出るすべての御言葉によつて生きる」が

掲げられていた。静かにお祈りをされて

いる婦人の横を通り御聖堂の後のアコ

デオンドアードを開けると集会室に出る。

このドアは御ミサのときは開かれて集

会室が御聖堂になる。集会室は日曜学校

を終つた子供たちが帰つて来て走り廻つており、お母さん方が、三三、五五に寄

り合つて話に余念がない。後には間近に

迫つたバザーのための品々が山積されて

いる。集会室の左手奥に和室の三部屋がある。もと物置になつていたものを、教

会の将来は青少年にあるとの神父様の意

見に従い、宿泊出来るよう改造したものである。もと物置になつていたものを、教

会室が御聖堂になる。集会室は日曜学校

を終つた子供たちが帰つて来て走り廻つており、お母さん方が、三三、五五に寄

り合つて話に余念がない。後には間近に

迫つたバザーのための品々が山積されて

いる。集会室の左手奥に和室の三部屋がある。もと物置になつていたものを、教</

マスコ途上



信徒養成コースに参加

私は、今回初めて信徒使徒職養成の第一回コースに参加させて頂きました。樹木と竹林にかこまれた宇治カルメル会黙想の家です。「みことばと典礼」という今回のテーマに魅力を感じ、期待をもつて参加しました。というのは、ミサの典礼の中に主体的に与っているというには程遠いものを感じていたからです。そして、

ぼくらがよく歌う歌がある。

「小さな人々」

ひとりひとりを見守ろう
ひとりひとりの中には
キリストはいる

「貧しい人が
かわいい
貧しい人が
かわいい」

「ひとりひとりひとりひとり」

一體誰のこと?

つてふるえてる人がいるんだって」
共同祈願だつて、「世界の貧しい人に云々……」
「困難に出会つている数多くの人々に」
あまりにも問題が大きく抽象的で、ぼくらが受けとめにくるものもある。

向かいの夫婦はいつもけんかばかりして、たいへんだなあ」
もちろん、広い視野で問題をとらえることだつて必要さ。でもそれだけに目をとられすぎると、身近な問題が見えなくなつてくる。ぼくは「法律学者」や「一般人」よりも「サマリア人」の態度をとりたい。「法律学者」だって旅先で人々に奉仕するつもりだつたのか

司祭や修道者などは、神(父・子・聖靈)や教会(小教区)のほうから、社会・世界へと目を向けているのに対し、多くの一般信者は、自分の家庭、職場といふ社会のほうから、教会や神に目を向けている。ビジョン作りの際に、この点が大きな問題になつてゐるようであるが、

はて、結末は如何に。

(L.S.)

12月になると、全国的に募金、チャリティーがたくさんあるけど、ぼくらの家となりの家の「やつちやん」は友だちがいるなくてさびしくして

このコースを終えた今、ずつしりとした充実感を感じております。

最初は、御受難会の国井健宏師による典礼の講義で、旧約の過越祭から第二バチカン公会議に至る典礼の歴史から始められたのですが、この中で生きた典礼、私達一人一人の全生活がかかわっていく共同体の典礼を垣間見る事が出来たよう

思います。私もこの祭儀に重大なかかわりを持つてゐる一人であるという重みです。私の毎日のすべての生活が、このみことばの食卓(ことばの典礼)と御聖体の食卓(感謝の典礼)に捧げられ、ここから私の生活の力は湧出して来る。本

当にこのことを私は、形式、抽象的な観念としてしか受容めていなかつたと思ひます。まつたくもつたない話です。し

みことばの講義は、ルカ10章のマルタとマリアの話から始まりました。マリアのように、すべてに超えて「神のみことばに聴く」ことの大切さを、ルカ福音書の大きな特徴としてとり上げ、他の福音書の平行箇所等との比較対照をしながら説明された。聖書を自分の主觀だけで受取るのでなく、つまり感情移入や読み込み陷入らしないように、真にみことばに聴く姿勢が大切であることを繰返し強調さ

かし、今知り始めているにすぎません。これからもつと学んで、典礼の一つ一つをしつかり味わつて、イエズス・キリストがすべての人に本当に与えようとされている命を汲取つていかなければならぬと思つております。

この後の、サレジオ会、石川康輔師のみことばは、如何なる方法を駆使して近づこうとも微動だにしません」という師の輝くような確信のことばは實に印象的でした。

最後になりましたが、「信仰に命をかけて下さい」とはげまして下さった田中司教様のおことば、終始オープンマインドで快活にリードして下さった松本神父様との出会い、そして共にこのコースに与つた兄弟達を通して示された神の恵みのすばらしさは、小心で億病な私に勇気とはげましを与えて下さいました。私のこれから歩みの支えであると感謝しております。

(江口紀吳 大和郡山教会)

——ひとこと——

どこに目を向けているのかな

司祭や修道者などは、神(父・子・聖靈)や教会(小教区)のほうから、社会・世界へと目を向けているのに対し、多くの一般信者は、自分の家庭、職場といふ社会のほうから、教会や神に目を向けている。ビジョン作りの際に、この点が大きな問題になつてゐるようであるが、

れた。この講義を通じて示された師ご自身のみことばに接する態度は、終始率直で、あいまいさを許さず、同時に幼子のような喜びと信頼に満ちていた。「神のみことばは、如何なる方法を駆使して近づこうとも微動だにしません」という

とつてもいい歌だけど、ともするとこんなふうに歌つてあるときがあるかもね。

「ぼくは知らないけど、どこかで貧しい国を出た人に家がない
寒い冬には着物がない
人が飢えかわいでいるそだよ
自分のまわりじや、あんまり見かけない
けれど、冬の寒いときに、着物がなく

山ほどある。ぼくはこんなふうに歌を歌つてみたい。

「ぼくのママは神経痛がひどいみたいだ

てみたい。

12月になると、全国的に募金、チャリ

ティーがたくさんあるけど、ぼくらの家

の中やまわりにもチャリティーが必要な

のかもね。

(J)

12月になると、全国的に募金、チャリ

ティーがたくさんあるけど、ぼくらの家

の中やまわりにもチャリティーが必要な

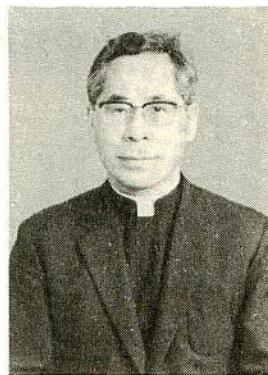
のかもね。

(M.K.)

諸宗教の対話

奥村
一郎

カルメル会司祭
聖母女学院学長



今年の夏はオランダで八月いっぱいにいよいよ
想指導にあたることになった。数年前から
ら依頼されていたことがやっと実現のは
こびになつたのだが、オランダの教会とい
いえば、第一ヴァチカン公会議以来の、
いわば問題児、ローマの頭痛の種とい
う国際的定評がある。それにここ数世紀、
プロテスrantとカトリックとが半々に
わかれ、カトリック教会自体が保守派と
進歩派との激突で今なお身動きならぬ状
態にあるといわれる。このような混沌と
した風潮の中で、オランダ民族独特の開
放性に受けいられて実際にさまざま形の
靈性がセキを切つたように流れこんでき
ている。地域的には九州ほどにもならぬ
小国で、しかも全く山地のない平野であ
るだけに思想の伝播が早いということも、
そうしたことの原因になっているのかも
れない。

このように多種多様な人たちが個々人の人生観や信条を起えてひと処に集まり、靈性の探求に励む姿には心うたれるものがあつた。

警戒心とかこもごもに折重なつていて、
しても、人類の歴史に明日を拓こうとす
る時の「し」がみえることは確かであ
る。人間の苦悩と模索とは、何らかの形
で「神の誕生」を待つ陣痛の苦悶を意味す
るからである。

今年の夏はオランダで八月いつばい瞑想指導にあたることになった。数年前から依頼されていたことがやっと実現のはこびになつたのだが、オランダの教会といえど、第一ヴァチカン公会議以来の、いわば問題児、ローマの頭痛の種といふ国際的定評がある。それにここ数世紀、プロテstantとカトリックとが半々にわかれ、カトリック教会自体が保守派と進歩派との激突で今なお身動きならぬ状態にあるといわれる。このような混沌とした風潮の中で、オランダ民族独特の開

間をこえる祈りと瞑想でひっしりつまつた毎日であった。修道者にとつてもかなり厳しいと思われるこのような瞑想修行に加つた人々は、それこそ老若男女を問はず、宗教・宗派の別もなく、ユダヤ教徒や仏教徒、なかには無神論者のフリーメーソンの人までがいた。

してサン・セプリカル(Saint Sépulcre)とよばれる女子修道院であった。それぞれ、一週間前後の期間にわたり一日六時間から七時間近く座禅をする。その上修道院の場合には、ミサを含めて一日五時間近い祈りの日課が織りこまれてくるので、座禅とあわせて一日十一時

日本からもここ数年来、イエズス会の愛宮ラツサール師、ジョンストン師、門脇師などが相次いで訪れ座禅の指導にあつたられたため禅ブームが急速にひろがりつつある。わたしが禅瞑想の指導にあつたのは三つの古い修道院とグレールといふ在俗会の本部であった。修道院といふのはトラピストとベネディクト会、そしてサン・セプリクル(Saint Sépulcre)とよばれる女子修道院であつた。

それぞれ、一週間前後の期間にわたり一日六時間から七時間近く座禅をする。その上修道院の場合には、ミサを含めて一日五時間近い祈りの日課が織りこまれてくるので、座禅とあわせて一日十一時間をこえる祈りと瞑想でびっしりつまた毎日であった。修道者にとつてもかななり厳しいと思われるこののような瞑想修行に加つた人々は、それこそ老若男女を問わず、宗教・宗派の別もなくユダヤ教徒や仏教徒、なかには無神論者のフリーメーソンの人までがいた。

日本の禅道場などにある、建物や庭、雲水の立居振舞のすみすみまで靈性がしみとおつている爽やかな雰囲気からすれば、まことに雑然とした異様なものを感じさせられることは事実である。しかしこのようにも種多様な人たちが個々人の人生観や信条を起えてひと処に集まり、靈性の探求に励む姿には心うたれるものがあつた。

に向つて機上の人となつたとき、ふと頭に浮んだイメージというのには、小学生の頃地理の授業で聞いたエジプトのナイル川のことだった。

卷之三

時報が対話
の手段なら
ば「互いに
心を開けあ
おう」書く
者も読む者
も、投稿者
も編集者も。

◆長島監督、山口百恵引退、嵐寛死す。
この一抹のわびしさよ。何私達に関係な

い？でもキリストを私達の生活から度々
引退させてはいまいか？その時私はどん

な感情でいるだろう？

り、ビジョン作りに明け、ビジョン作りに暮れたような一九八〇年。益々もつて

イエズス様と駆けつこしそうな八年。
パパ様の訪日もあり幸先良し。
(Y)

◆この一年で5キロ肥つた。ただ今、減量作戦で奮闘中。来年の12月号では、ス

マートなボクになつて、开心に報告したものだ。果して成功するか。
(亜)

◆ いくつかの季節を重ね、今年もクリスマスを喜びと共に迎えます。時の早さが

身にしみ、生かされていることを改めて感じています。感謝のうちに。(I)

毎年クリスマスのあとはどつと疲れが押し寄せる。誰かが言つてたことだけど

今年のクリスマスには、飼葉桶のまぐさの中に、ゆっくり私が眠りたい。（J）

◆ 「コスマス」とはギリシャ語で宇宙という意味であるが、その他、調味、秩序

の意味もある。宇宙は神の存在のもつともよく感じられるところである。(き)

本紙を福音宣教に役立たせるため、
二近所、お友だちにもお見せ下さい。